

やお・かしわら

ばいがんじ 梅岩寺

梅岩寺は、聖徳太子の開祖で日本で最も古い寺院の一つである。用明天皇2年(587)太子14歳の時、仏教受容の可否をめぐる、蘇我氏と物部氏の戦いとなったが、崇仏派の蘇我氏は三度敗退を余儀なくされた。ときに軍陣に在った太子は夢告によって山中のヌルデ(山野にはえる漆科の落葉小高木で高さ6メートルくらい。秋早く美しく紅葉するので、ヌルデモミジとも言う。)の木を捜し求めて、四天王像を刻み戦勝の祈願を行った。これにより蘇我氏が勝利を得て、ここに仏法興隆の基がきずかれ後に太子は、このヌルデを求めた地に観音像を祀られたのが当寺の始まりであると伝えられている。その後、寛文年間(1661~73)に黄檗開山隠元禪師がこの地に巡錫し、弟子の木庵禪師に命じ黄檗宗の寺として復興させ自ら染筆し、「寿福山」の山号の額を造らしめ、禪寺として黄檗宗の



本堂



下界の眺め



参道から山門を見る

所在地：八尾市教興寺 558
(河内三十三ヶ所第 14 番札所)
最寄駅：近鉄信貴線「信貴山口」駅から南へ約 1.0 km
見学：境内は自由
TEL：072-941-1670

念仏禅を宗旨として現在に至っている。参道の階段を上ると中国のお寺を思わせる山門がある。山門に掲げられている額は隠元禪師筆のコピーであるが、本物は傷みを避けるため本堂に保存されている。本堂には本尊の聖観世音菩薩(平安時代末期の作)をはじめ聖徳太子像、弁財天像などが祀られている。また、当寺は八尾市の東部信貴山麓の中腹にあり、山門からは視線を遮るものがなく大変見晴らしの良いところに位置している。春の桜・夏の新緑・秋の紅葉・冬の雪景色(?)だけは少ないが四季折々に自然を楽しむお寺である。今回も取材に行った時は梅雨明けの蒸し暑い日であったが、一步境内に足を踏み入ると、ひんやりとした空気か流れ、都会(?)の喧騒を忘れさせる場所である。また、夜景を楽しむ八尾の数少ないデートスポットの一つでもある。(新田俊明)